

第11回NPT再検討会議第1回準備委員会NGOセッション（8月2日）

松井平和首長会議会長（広島市長）スピーチ

尊敬するヴィーナネン議長

本準備委員会の開催に向けて尽力された関係者の皆様に敬意を表しますとともに、平和首長会議を代表して発言する機会を与えていただいたことに感謝を申し上げます。

ウクライナでの戦争は収束が見込めず、ロシアによる核兵器使用の威嚇が幾度となく繰り返される中、多くの為政者や世論までもが、核抑止力拡大に理解を示す傾向にあり、これまで長年被爆地が訴え続けてきた平和への願いに逆行するような事態が続いています。

5月に開催されたG7広島サミットでは、核保有国を含む各国首脳が平和記念資料館の視察や被爆者との対話をされた後に、芳名録へ記帳されました。各国首脳が記帳された内容は、それぞれに異なりますが、そのいずれもが被爆の実相に直接触れたことで、世界恒久平和の実現を祈念し、核兵器は二度と使われてはならないとの「ヒロシマの心」を深く知っていたものとなっています。私はこのことに感銘しました。

また、同サミットにおいて「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」が発出されましたが、同ビジョンにおいて各国首脳が核兵器のない世界の実現に向けた約束を再確認したということを重ねて受け止める必要があると考えています。今後は、今や破綻している核抑止論を放棄し、核兵器廃絶に向けた具体的な行動を開始する必要があります。そのために、私が会長を務める平和首長会議は、世界166か国・地域の8,200を超える加盟都市と連携し、あらゆる暴力を否定する「平和文化」を振興し、国際的な規模で平和意識を醸成することで、為政者に対話を通じた外交政策を促す環境づくりを推進したいと考えています。

私たちの究極の目標は、核兵器のない世界の実現であり、人類はそのための連帯責任を負っています。各国政府代表の皆様には、核軍縮の努力を約束した重要な多国間条約であるNPT第6条が規定する核軍縮の誠実交渉義務を再確認していただき、今回の準備委員会の場で具体的な核軍縮・不拡散措置を確実に進展させるための大きな一歩を踏み出されることを心から期待しています。